

付録1

環境省環境放射線調査委員会報告書は、本文約460頁、付録約280頁から成り、本文は序文(Preface)、歴史的経緯(Historical Review)、総括(Executive Summary)に分かれていて、各章はそれぞれ日本国内から選ばれた著名の専門家によって書かれたもので、その内容は高度に専門的であって全体を理解することは容易でない。本小冊子はこの報告書の概要を刊行し、先づでも理解を容易にするために書かれたもので、線量再評価が必要になった理由と、新しい評価システムDS86によって得られた結果のうち特徴的なものについて、従来のシステム「65日」と比較しながら述べることを主眼として書かれたものである。

日米原爆線量再評価検討委員会報告書について

本小冊子ではこの報告書の概要を刊行し、先づでも理解を容易にするために書かれたもので、線量再評価が必要になった理由と、新しい評価システムDS86によって得られた結果のうち特徴的なものについて、従来のシステム「65日」と比較しながら述べることを主眼として書かれたものである。

本小冊子を執筆するにあたり、有益な意見を寄せられた岡田達二(日本アイソトープ協会)、加藤克夫、藤田正一郎(放射線影響研究所)の諸氏に厚く謝礼を申し上げます。また、放射線影響研究所理事長松尾清氏の貴重な御意見を敬重し、敬謝する。各章の執筆に当たっては、その原稿の執筆者の一人である次の方々に協力していただいたので感謝の意を表したい。佐古敏彦(東京大学)、岡田達二(日本アイソトープ協会)、岡島俊三、藤田正一郎(放射線影響研究所)、丸山隆司(放射線医学総合研究所)の各氏。また、Executive Summary の日本語訳(漢語訳)を付録として加えることは岡田達二氏の御好意に謝意を表す。

田 島 英 三

厚生省「原爆による線量の評価検討委員会」委員長

II. DS86の主要なる計算結果と「65日」との比較
III. 報告書の各章の概要

付録1 Executive Summary の訳
(田島・長崎原爆放射線再評価：総括)
付録2 A～D 日米線量再評価委員会名簿

昭和62年 7 月